



大分大学総務部総務課広報係
870-1192 大分市大字旦野原 700
TEL:097-554-7376 FAX:097-554-7413
MAIL:koho@oita-u.ac.jp
URL:http://www.oita-u.ac.jp

PRESS RELEASE (2023/1/11)

県政記者クラブ各社 殿

国立大学法人大分大学

豊後大野市における「地域点検ワークショップ」の開催について（お知らせ）

この度、大分県と大分大学が連携して、豊後大野市にて地域点検ワークショップを開催しますので、お知らせします。本学の教員と学生、県職員、実務者が豊後大野市に伺い、市職員と共に地域の現状と課題を洗い出すワークショップを行います。豊後大野市での開催は今回が初めてとなります。

このワークショップは、2021年度から大分県と大分大学が連携して実施している「地域共生社会の実現に向けた実務者ネットワーク会議構築事業」の事業の一環で、重点的支援体制事業を始めようとしている県内の市町村を支援するものです。

ワークショップでは、大学独自で考案した「地域生活課題カード」と社会資源カードを用いて、3つのステップで課題解決の議論と解決に向けたアイデア出しを行います。

本件については、12月22日の学長定例会見にてご案内していますが、当該取組について広く県民の皆様へ知っていただきたく、改めて会の開催をお知らせする次第です。以下のとおり取材対応予定ですので、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- ・日 時：令和5年1月19日（木）10：00～12：00
- ・場 所： 豊後大野市役所2階（中央公民館）視聴覚室
豊後大野市三重町市場1200番地
- ・主催者：大分県福祉保健部、大分大学福祉健康科学研究科
- ・参加者：本学学生・教員、県職員、豊後大野市職員、実務者

※取材にお越しになる際のお願い

- ・取材にお越しになる場合は、事前に下記までご連絡をお願いします。
- ・少しでも体調がすぐれない方は、取材・撮影をご遠慮ください。

（本件問合せ先・連絡先）
大分大学福祉健康科学部社会福祉実践コース 教授
担当：上白木 悦子（かみしらき えつこ）
TEL：097-554-7540 E-mail：kamishiraki@oita-u.ac.jp

【令和4年12月学長定例会見配付資料※】

※今回は以下1の「豊後大野市での地域点検ワークショップの開催」についてのご案内です。

～実施予定の事業について～

大分県「地域共生社会の実現に向けた実務者ネットワーク会議構築事業」の具体的な取組として、令和5年1月・2月に実施予定の事業は以下のとおりです。いずれも取材対応予定ですので、ご高配を賜りますようお願いいたします。

1. 地域点検ワークショップの開催

事業区分	事業④ 包括的支援体制整備活動として地域点検ワークショップを開催
実施方法	教員・学生・県職員・実務者が豊後大野市に伺い、市職員と共に、地域の現状と課題を洗い出すワークショップを行います。 ワークショップでは、大学独自で考案した「地域生活課題カード」と「社会資源カード」を用いて、3つのステップで課題解決の議論と解決に向けたアイデア出しを行います。
実施日	令和5年1月19日（木）10時～12時
実施場所	豊後大野市役所2階（中央公民館）視聴覚室 豊後大野市三重町市場1200番地

2. 大分大学福祉健康科学部の学生による「おおいた子ども食堂ネットワーク」の取材企画

事業区分	事業③ 多世代交流・支え合い活動構築
実施方法	おおいた子ども食堂（大分市）に、福祉健康科学部学生・教員が出向き、継続的に取材を行っています。令和4年11月より取材を開始し、計2回の取材を実施済みです。1月は以下の子ども食堂を、福祉健康科学部社会福祉実践コースの学生4名が取材予定です。 また、取材内容について、大分子ども食堂ネットワークのホームページ等への掲載しています。
実施日	令和5年1月28日（土）10時～13時
実施場所	「北山田ふれあい食堂みかづき」北山田自治会館ホール 玖珠郡玖珠町大字戸畑6520番地の7

3. 第3回実務者ネットワーク会議の開催

事業区分	事業① 全体会議を毎年3～4回にて開催
実施方法	実務者、県内市町村、県、大学にて、本年度最後の全体会議を行います。会議では、本年度の事業の振り返りと次年度に向けた計画を検討する予定です。
実施日	令和5年2月9日（木）13時30分～17時
実施場所	大分市内にて調整中（後日、プレスリリースにてお知らせします）

◆実施時期が近づきましたら、1～3について個別にプレスリリース予定です。

■情報の名称

大分県「地域共生社会の実現に向けた実務者ネットワーク会議構築事業」
(大分県受託事業)
～官学連携により地域共生社会の実現に向けた取り組みを全国に先駆けて展開～

■目的・内容

現在、福祉的課題が多様化・複雑化するなかで、重層的支援体制整備事業が2021年に創設されました。

この重層的支援体制整備事業とは、市町村全体の支援機関・地域の関係者が困りごとや相談を断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトに、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施することです。

この事業を受けて、大分大学では2021年度から大分県と連携し、大分県「地域共生社会の実現に向けた実務者ネットワーク会議構築事業」を実施しています。

この事業は21名の産学官の構成員とともに、本学福祉健康科学部の学生も参加しており、課題に向き合い、地域の方々と交流することで、学生の成長にもつながる取組となっています。

令和4年度には、全国で134の自治体が「重層的支援体制整備事業」を実施予定ですが、本学と大分県による「官学連携×学生」による取組は全国的にも珍しく、全国に先駆けた取組です。

具体的な事業は以下のとおりです。

事業① 全体会議を毎年3～4回にて開催

実務者ネットワーク構築事業に関する協議をするために、実務者及び自治体とともに定期的な会議を開催

事業② 県内18市町村に向け取り組みの広報活動

県内18市町村を訪問し、本事業の広報啓発や活動実態を把握（全18市町村実施済み）

事業③ 多世代交流・支え合い活動構築

多世代交流や支え合い活動等の立上げや充実に取組む団体からの個別具体的な相談に対する支援・助言

事業④ 包括的支援体制整備活動として地域点検ワークショップを開催

重層的支援体制整備事業を始めようとしている県内の市町村への支援（国東市、日出町で実施済み）

(参考)

厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」

<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>

厚生労働省「地域共生社会の推進」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/chiikikyosei/index.html

■特色・特徴等

産学官の21名からなる構成員により上記①～④の事業を展開
(構成員内訳)

- ・実務者 9名 (NPO 法人アンジュ・ママン、社会福祉法人太陽の家、(一社) 自立生活サポートセンターこんぱす、九重町社会福祉協議会※、入蔵健康サロン、社会医療法人関愛会法人本部地域福祉推進室、NPO 法人おおいた子ども支援ネット、佐伯市社会福祉協議会※、中津市社会福祉協議会※) ※各領域の実践者として参加
- ・大分県社会福祉協議会 1名
- ・市町村社会福祉協議会 1名 (杵築市社会福祉協議会)
- ・市町村 2名 (臼杵市、津久見市)
- ・大分県 5名 (高齢者福祉課地域包括ケア推進班、こども未来課子育て支援班、こども・家庭支援課家庭支援班、障害者社会参加推進室地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班、福祉保健企画課地域福祉班)
- ・大学 3名 (大分大学福祉健康科学部教員)

■実施方法

■実施時期等

■実施場所等

} 別紙「実施予定の事業について」参照

■問合せ先・電話

大分大学福祉健康科学部社会福祉実践コース

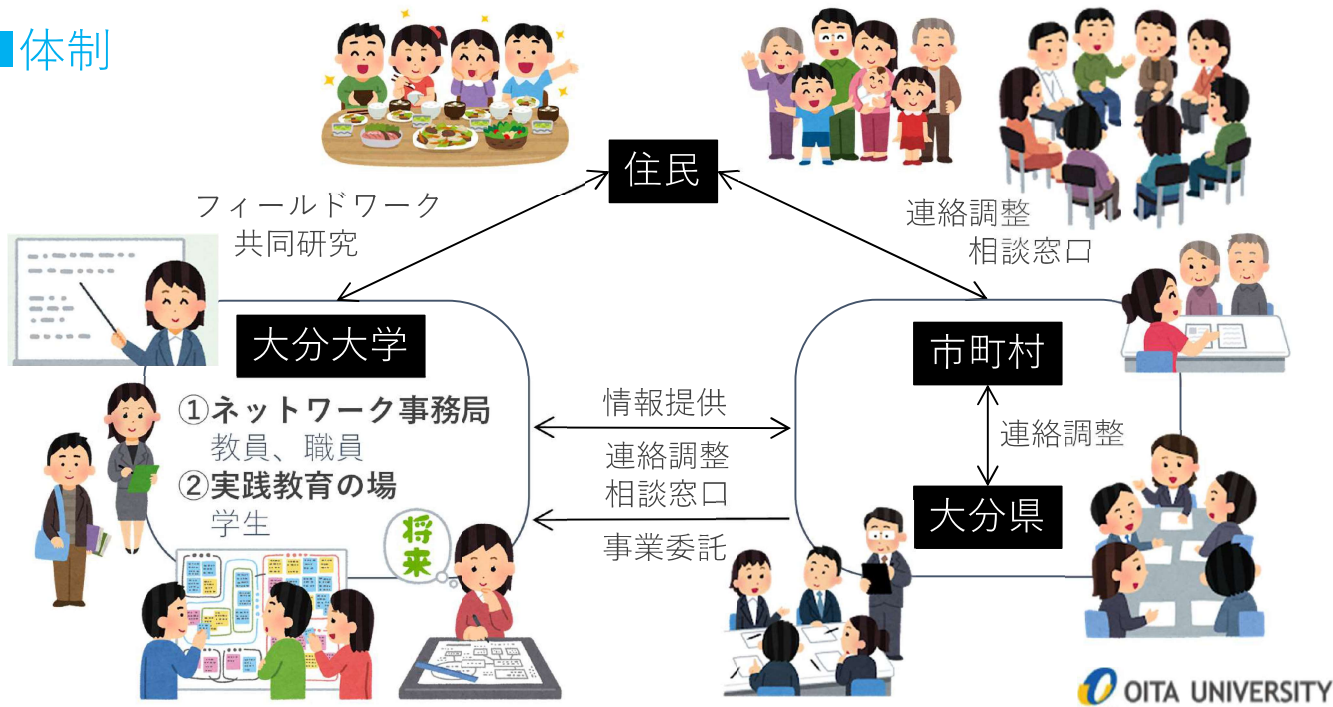
担当：上白木 悦子 (かみしらき えつこ) 役職名：教授

TEL：097-554-7540 E-mail：kamishiraki@oita-u.ac.jp

実務者ネットワーク事業の概要

- 目的
 - ①住民に身近な圏域での多世代交流や支え合いの支援
 - ②市町村の包括的相談支援体制の構築
 また、大学に集う多職種の知見や研究力を取り込み教育研究活動の向上や人材育成に資するものとする。

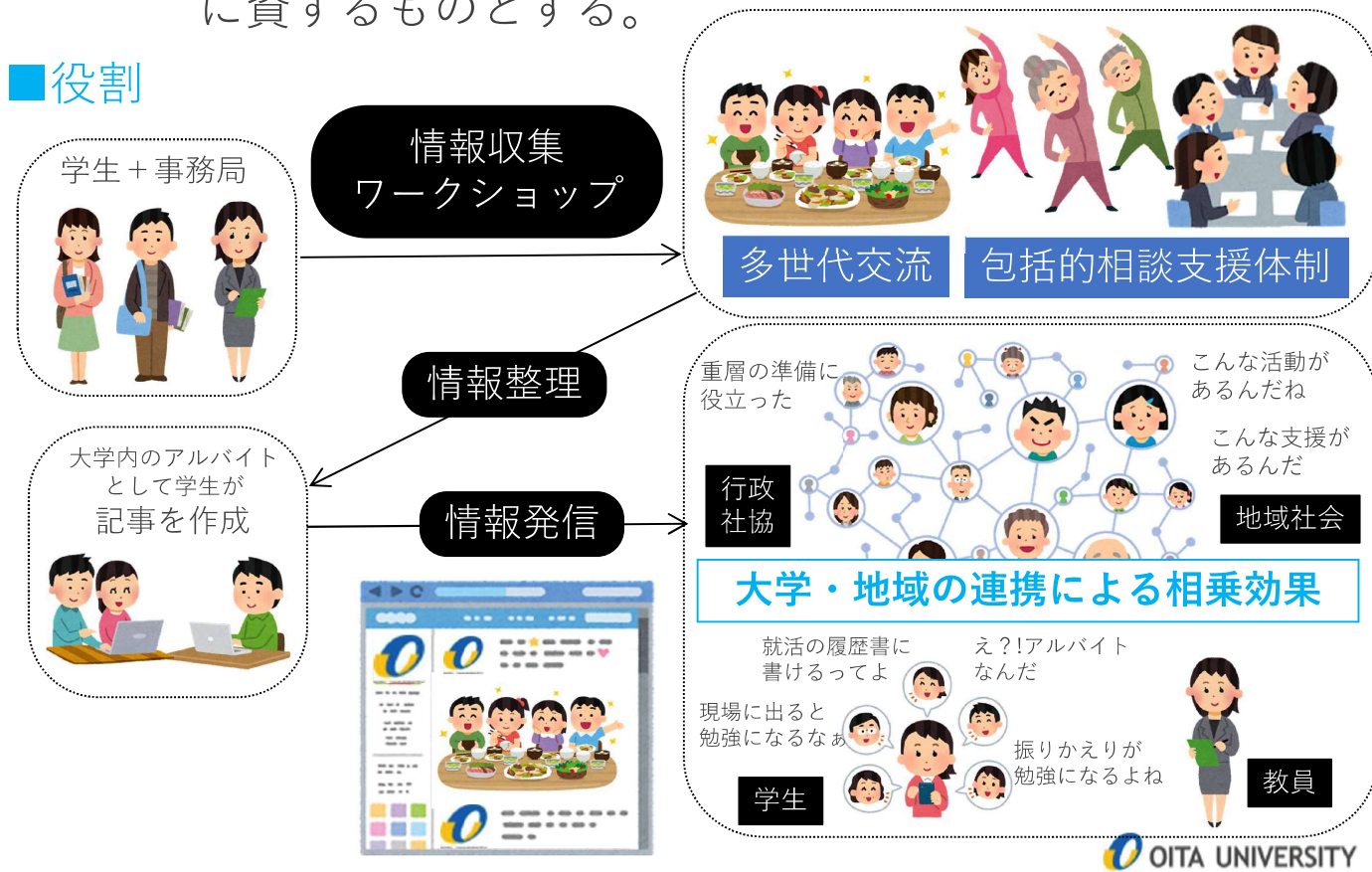
■ 体制



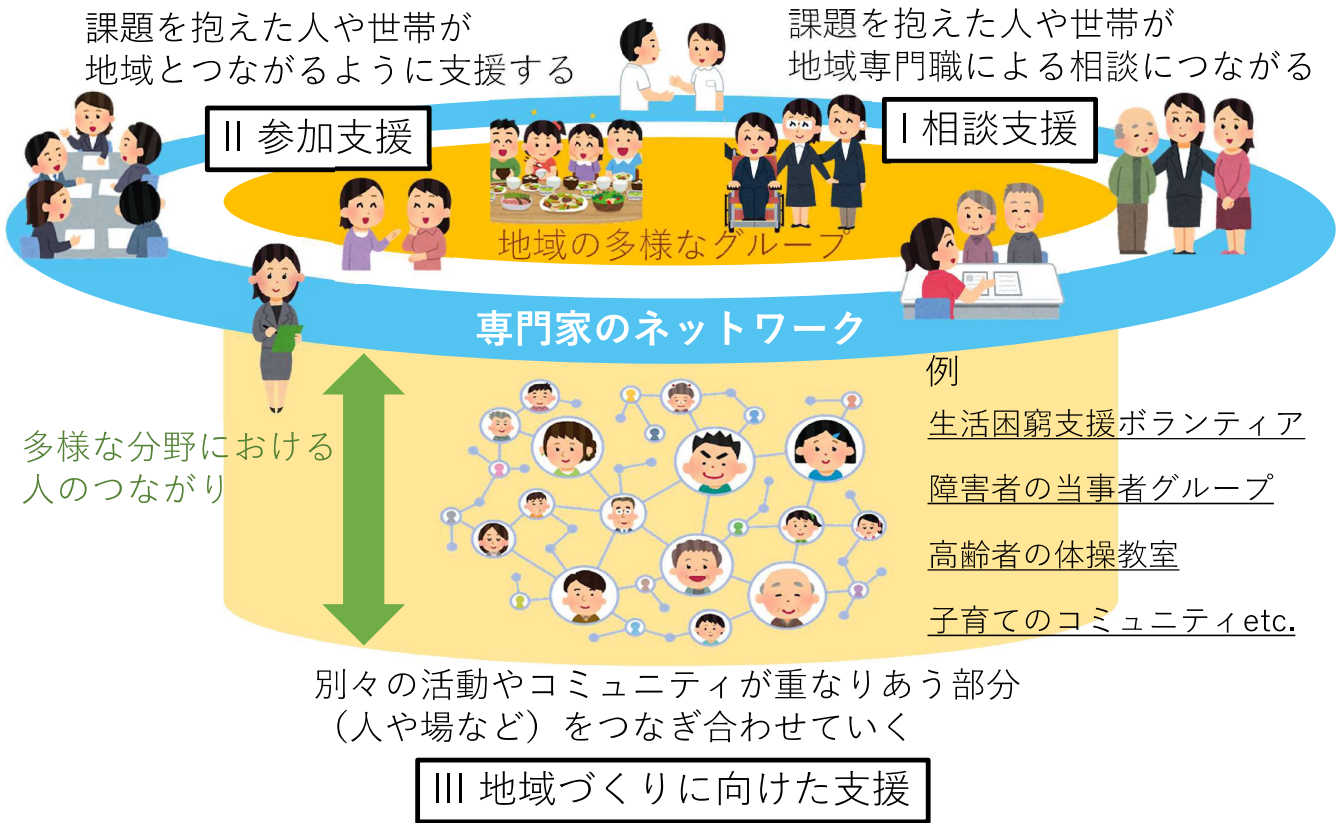
実務者ネットワーク事業の概要

- 目的
 - 実践教育の場として、教育研究活動の向上や人材育成に資するものとする。

■ 役割



包括的な支援体制の整備



出所：令和2年度厚生労働省生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業)「重層的支援体制整備事業に係る自治体等における円滑な実施を支援するためのツール等についての調査研究」をもとに齋藤が作成

重層的支援体制整備ワークショップ

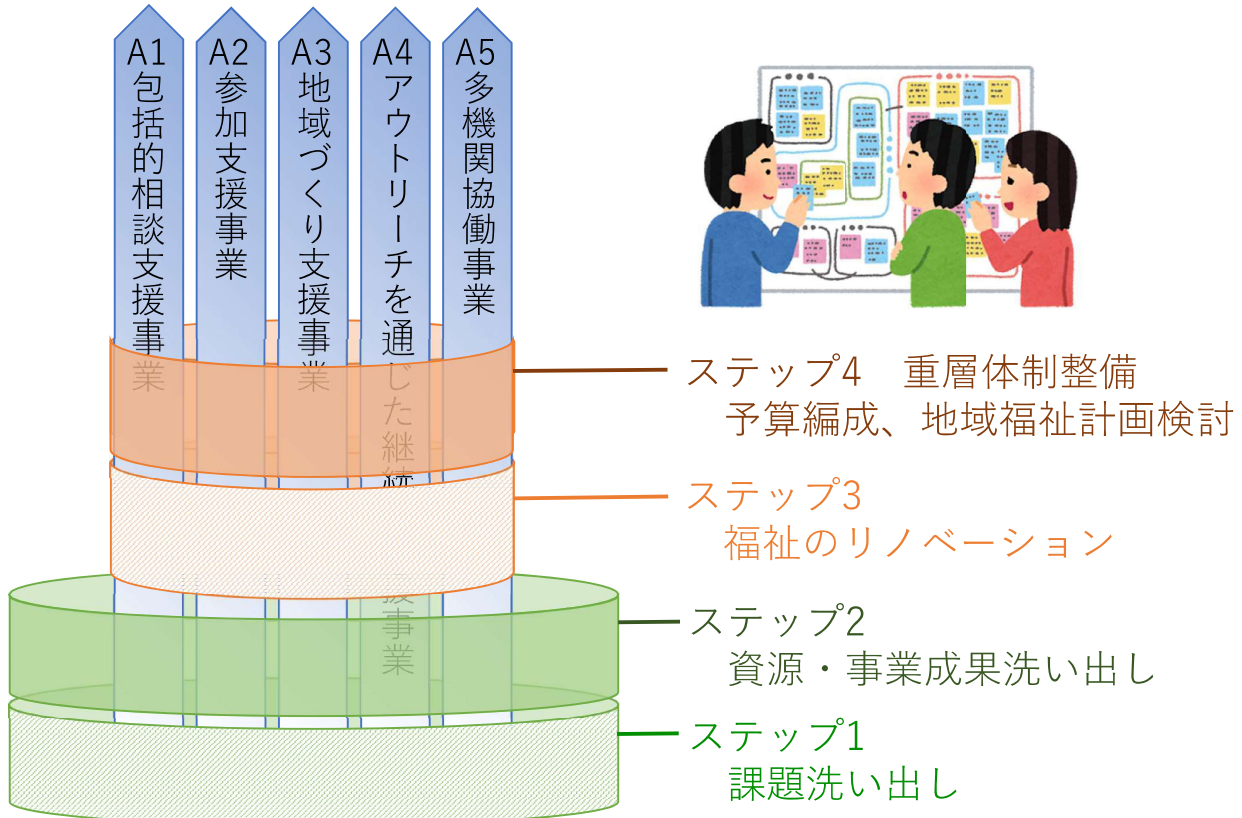


図 重層的支援体制整備事業ワークショップの構造図

出所：NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター、令和3年度社会福祉推進事業「重層的支援体制整備事業による体制整備に向け市町村内の事業実施体制の評価指標の開発に関する調査・研究事業」p.18, 図00-1 重層的支援体制整備事業の構造図(A+B+Cモデル)を参考に齋藤が作成。